

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-179441

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 6 月 28 日

(51) Int.Cl.⁵

B 6 5 D 5/56

B 3 2 B 27/32

識別記号

Z 7445-3E

8115-4F

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平4-352221

(22) 出願日 平成 4 年 (1992) 12 月 10 日

(71) 出願人 000003193

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東 1 丁目 5 番 1 号

(72) 発明者 武 喜昭

東京都台東区台東一丁目 5 番 1 号 凸版印刷株式会社内

(72) 発明者 森嶋 繁徳

東京都台東区台東一丁目 5 番 1 号 凸版印刷株式会社内

(72) 発明者 白杉 嘉良

東京都台東区台東一丁目 5 番 1 号 凸版印刷株式会社内

(74) 代理人 弁理士 秋元 輝雄

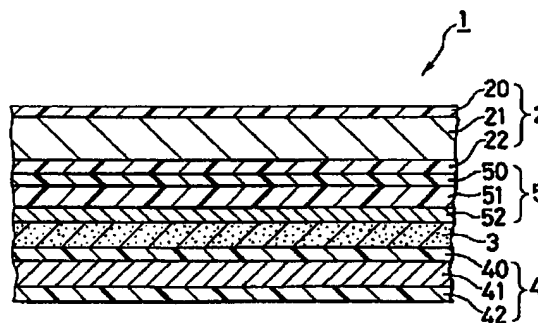
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液体容器の包装材料

(57) 【要約】

【目的】 包装材料の内面側にバリアー性の高い層を設けるようにし、内面フィルムの剥離が生じないようにして非食品、非飲料を収容するに適した紙容器を得る。

【構成】 バリアー層をポリオレフィン樹脂 40、42 間に配してなる共押し出しフィルム 4 を、容器の内方側となる面に設けた。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】バリアー層をポリオレフィン樹脂層間に配してなる共押し出しフィルムを、容器の内方側となる面に設けたことを特徴とする液体容器の包装材料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、液体容器、特に洗剤、ワックス、インキ、化粧品、シャンプー、リンス、浴用剤などを収容する紙を主体とした容器を形成するための包装材料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、上記したような洗剤、ワックス、インキなどの非食品、非飲料の液体を収容するものとし*

(容器外方)

紙層を有する基材/接着剤(例えば2液ポリウレタン系のもの)/内面フィルム

とされ、そして、前記内面フィルムに、ポリエチレン樹脂やポリプロピレン樹脂が採用され、この内面フィルムが内容物(非食品、非飲料)に含まれている香料、表面活性剤、溶剤などに対する浸透性があるため、これらの成分が接着剤部分まで浸透して接着剤自体を侵してその接着力を失わせるという問題が発生し、内面フィルムが剥離することもあった。

【0004】そこで本発明は上記した事情に鑑みて、包装材料の内面側にバリアー性の高い層を設けるようにすることを課題とし、内面フィルムの剥離が生じないようにして非食品、非飲料を収容するに適した紙容器を得ることを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は上記した課題を考慮してなされたもので、バリアー層をポリオレフィン樹脂層間に配してなる共押し出しフィルムを、容器の内方側となる面に設けたことを特徴とする液体容器の包装材料を提供して、上記した課題を解消するものである。

【0006】

【作用】本発明においては、上記包装材料から容器を形成することによってその容器の内方側にガスバリアー性のある層が位置し、収容物からの各種成分が接着剤側に浸透しないようになる。

【0007】

【実施例】つぎに本発明を図1に示す一実施例に基づいて詳細に説明する。包装材料1は概略的な層構成を図1に示すように、容器外方側から基材2、接着剤3、内面フィルム4としており、基材2と接着剤3との間には、容器外方からの酸素などのガスの侵入を防ぐバリアー性を有した中フィルム5が設けられている。

【0008】そして、上記基材2は容器外方側からの構成が、

ポリエチレン樹脂20/紙21/ポリエチレン樹脂22とされており、中フィルム5の構成は、ポリエチレン樹脂50/ポリエステル樹脂51/S10(酸化ケイ素)

2

*てはプラスチックボトル、金属缶が使用されていた。また、昨今においては、内容物を使用した後のこれら容器の廃棄処理の手間や廃棄物として破棄されるこれら容器が環境に与える影響などを考慮して、飲料用容器として流通している紙容器を使用することが考えられるようになってきた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、飲料用の容器として使用されている紙容器を上記の非食品、非飲料を収容する容器として使用しようとする場合、つぎのような不都合がある。すなわち、飲料用の容器を形成する包装材料の層構成は、

(容器内方)

52としている。中フィルム5の構成は前記のものに限定されず、特にガスバリアー性に優れるものとして、

・ポリエチレン樹脂/ナイロン樹脂/ポリエチレン樹脂
・ポリエチレン樹脂/ポリエステル樹脂/ポリエチレン樹脂

・ポリエチレン樹脂/エチレン-酢酸ビニル共重合体のけん化物/ポリエチレン樹脂

特に水蒸気バリアー性に優れるものとして、

・ポリエチレン樹脂/高密度ポリエチレン樹脂/ポリエチレン樹脂

ガスバリアー性と水蒸気バリアー性とを有するものとして、

・高密度ポリエチレン樹脂/ナイロン樹脂/高密度ポリエチレン樹脂

・高密度ポリエチレン樹脂/ポリエステル樹脂/高密度ポリエチレン樹脂

などが挙げられる。そして中フィルム5の層厚としては大体30μから150μとしている。接着剤3はポリウレタン系のものが使用される。この接着剤3を介して上記内面フィルム4が中フィルム5側に貼り合わされており、この内面フィルム4の層構成は容器外方側から、

ポリエチレン樹脂40/ガスバリアー性素材41/ポリエチレン樹脂42

としている。内面フィルム4のガスバリアー性素材41はナイロン樹脂であって、この内面フィルム4の形成に際してポリエチレン樹脂40、42の間にナイロン樹脂を配した三層共押し出しして成型されている。

【0009】ガスバリアー性素材41は上記ナイロン樹脂に限定されるものではなく、他のガスバリアー性を奏するようになる素材が使用でき、例えば、エチレン-酢酸ビニル共重合体のけん化物(EV-OH)、ポリ塩化ビニリデン(PVDC)をナイロン樹脂の代わりに採用することができる。また、基材側の層構成も上記した例に限定されるものではなく、

ポリエチレン(PE)/紙/エチレン・メタクリル酸共

重合体 (EMAA) / A1 / ポリエステル (PET)
 という層構成とすることも可能である。

【0010】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、液体容器の包装材料は、バリアー層をポリオレフィン樹脂層間に配してなる共押し出しフィルムを、容器の内方側となる面に設けたことを特徴とするものである。これによって、容器内に収容する内容物の成分が接着剤に浸透せず、この接着剤が侵されずに接着力が保たれ、内面フィルムの剥離が生じなくなるなど、実用性に優れた効果を奏するものである。

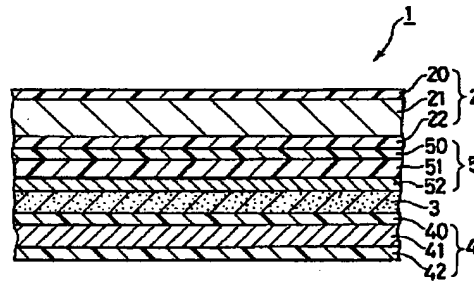
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る液体容器の包装材料の層構成を示す説明図である。

【符号の説明】

1…包装材料
 2…基材
 20…ポリエチレン樹脂
 21…紙
 22…ポリエチレン樹脂
 3…接着剤
 4…内面フィルム
 40…ポリエチレン樹脂
 41…ガスバリアー性素材
 42…ポリエチレン樹脂
 5…中フィルム
 50…ポリエチレン樹脂
 51…ポリエステル樹脂
 52…SiO

【図1】



フロントページの続き

(72)発明者 内藤 俊也

東京都台東区台東一丁目5番1号 凸版印刷株式会社内